

アセスメント・ポリシー

医学部におけるアセスメント・ポリシーは学生の学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準（評価基準）、評価の実施方法等について定めた学内の方針である。ここに、その目的は、厳格な成績評価や卒業認定を行い、本学部の理念「醫明博愛」を実践する資質と能力を身につけた人材を養成することである。また、達成すべき質的水準は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる及び日本大学教育憲章に基づく能力を身に付けているかを評価基準とするものである。

評価の実施方法は評価測定手法として、直接データ（定期試験、授業内小テスト、実習テスト、レポート、プレゼンテーション、小論文、演習課題、学習態度、口頭試問、プロジェクト、チューター評価等）、間接データ（学修到達度調査、学修行動調査等）及びアセスメント・テスト（基礎医学の全般的な知識を問う「基礎医学統合試験」、臨床実習に必要な知識、技能及び態度を問う「共用試験CBT・OSCE」、医師として必要な知識を問う「学力統一試験」、医師として必要な技能と態度を問う「臨床実習後OSCE」）などを組み合わせて行う。この評価方法については、シラバス等に明記し周知する。